

「地域活性化の切り札・観光立国への道」公明新聞 31 回 2009 年 11 月 23 日～10 年 8 月 23 日

	1	<はじめにー観光立国への道ー>「大交流時代の中、“乗り遅れぎみ”」
日本 の 現 状 と 課 題	2	「日本の現状と課題①」「均衡欠く訪日と出国の旅客数」
	3	「日本の現状と課題②」「『観光庁』はポリシー・メーカーに」
	4	「日本の現状と課題③」「豊かな国民生活のためにある観光」
	5	「日本の現状と課題④」「『外国人を迎える意識』に低い評価」
	6	「日本の現状と課題⑤」「観光活性化には複数の拠点を」
	7	「日本の現状と課題⑥」「訪日外国人客用のプランナー養成を」
	8	「日本の現状と課題⑦」「入国者の訪問地と出国者の在住地に格差」
	9	「日本の現状と課題⑧」「国際交流の気持ちを高めるべき」
活 性 化 効 用	10	<観光活性化の効用①> 「経済、社会文化、自然環境面に効果」
	11	<観光活性化の効用②> 「経済面の『リーケージ(国外漏出)』が問題」
	12	<観光活性化の効用③> 「日本⇄海外間の修学旅行が大きな役割」
	13	<観光活性化の効用④> 「大量化の場合でもエコツーリズムの実現を」
海 外 の 事 例	14	<海外の事例①> 「進む中国の観光インフラ整備」
	15	<海外の事例②> 「ビザ免除で中国人誘致を図る韓国」
	16	<海外の事例③> 「観光立国タイの宣伝手法に学べ」
	17	<海外の事例④> 「観光統計に熱入れるオーストラリア」
	18	<海外の事例⑤> 「例を見ないほどの豪州の長期有給休暇」
	19	<海外の事例⑥> 「国際会議を戦略にするシンガポール」
推 進 す べ き こ と	20	<推進すべきこと①> 「観光情報発信を活発かつ継続的に」
	21	<推進すべきこと②> 「ビザ緩和など観光インフラ整備を」
	22	<推進すべきこと③> 「京都、北海道の連携で豪州客の誘致も」
	23	<推進すべきこと④> 「外国人の観光プロの力を借りるべき」
	24	<推進すべきこと⑤> 「“国際的”着地型観光をつくれ」
	25	<推進すべきこと⑥> 「観光プロ養成講座の対象拡大を」
	26	<推進すべきこと⑦> 「日本に住む身近な留学生を味方に」
	27	<推進すべきこと⑧> 「為替レートを活用し、観光誘致の促進に」
	28	<推進すべきこと⑨> 「訪日外国人のための危機管理体制を」
	29	<推進すべきこと⑩> 「幅広い視野を持つ観光系学生の育成を」
	30	<推進すべきこと⑪> 「観光分野において産官学の連携を」
	31	まとめー多数の国から日本各地へ旅行客誘致をー